

# 新・国史大年表

全九巻+索引一巻

日置英剛 編 題字=倉橋奇艸

B5判・上製クロス装・函入・各巻約800~900頁 予価 各21,000円(税込価格)

第一回配本・第六巻 (ISBN4-336-04779-0) 2006年10月刊行予定

## ●本書の特色

- 1 古代より現在まで日本歴史のあらゆる分野(政治・経済・社会・宗教・風俗・文化・娯楽・美術・工芸・趣味)を網羅。
- 2 すべての史資料に典拠を明記。加えて本文の理解を助ける補助史資料が豊富。
- 3 かつてない詳細さと、正確な記述。月日の単位で出来事の全貌を紹介。
- 4 政治・経済・社会・文化からなる三段組の見やすいレイアウト。最上段に指標を明示し、調べたい項目がいち早くみつかる。
- 5 中高生にもわかりやすいよう、ルビや語句の説明が豊富。
- 6 それぞれの巻末には充実した索引を完備。約五十の分野別に構成された項目索引(各巻約七〇〇〇~八〇〇〇件)は、事物の起源や便覧としても役立つ。人名索引は各巻約七〇〇〇件。また最終配本では、各巻の索引を全て集めた索引巻を用意し、古代から現代まで体系的に知識が得られる。

## ●構成内容

\*各巻の構成は、今後変更される場合がございます。(第一回配本以降、年三冊ずつ刊行予定)

- 第一巻 古代~九九九年(第二回配本二〇〇七年二月予定)
- 第二巻 一〇〇〇~一三〇〇年(第三回配本予定)
- 第三巻 一三〇一~一五〇〇年
- 第四巻 一五〇一~一七〇〇年
- 第五巻 一七〇一~一八五二年
- 第六巻 一八五三~一八八六年(第一回配本)
- 第七巻 一八八七~一九二五年
- 第八巻 一九二六~一九六〇年
- 第九巻 一九六一~二〇一〇年(最終配本)



好評既刊

## 別巻 年表 太平洋戦争全史 日置英剛 編

太平洋戦争の全てがこの一冊に！ 刻一刻と変化する戦時状況を日を追って詳しく説明した年表に、膨大な史資料を併載。索引も充実した太平洋戦争史の決定版。項目索引(2392)・人名索引(7836)・艦艇索引(989)・民間船索引(2740)・外国艦船索引(662)・部隊(名)索引(647)・特別攻撃隊索引(456)・軍事裁判所索引(55)

B5判・上製クロス装 函入936頁(うち索引98頁) 定価15,750円(税込価格) ISBN4-336-04719-7

◆取扱書店

◆発行 国書刊行会 〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15 TEL.03-5970-7421 FAX.03-5970-7427 http://www.kokusho.co.jp

## 日置英剛 編

二〇〇六年十月より刊行開始 全巻予約受付中!!

# 新・国史大年表

全九巻+索引一巻

空前絶後の情報量!!

古代から現代まであらゆる分野を網羅した、

新しい時代の読む年表、いよいよ刊行開始!!

国書刊行会

# 『新・国史大年表』刊行によせて

日置英剛

私は中学二年の夏に太平洋戦争の混乱の中で母を亡くし、大学を卒業して二年目にして全身不随になった父を引き受け、そして一年間の闘病の末に父は亡くなった。それは大変なことだった。親孝行できるゆとりが少なかった頃にはもう両親がいらないということだった。その父は、学歴は小学校しかなかったが、ただ歴史が好きというだけで独力で作り上げたのが『国史大年表』全七巻である。平凡社から昭和十年に発刊された。この年表はいままでにない体裁で見やすく、判りやすいという点で、世間からは好評をもって迎えられた。ところが、当時の学会からは、参考にした出典の記載はまとめてあるが、個々の事項には出典が明記されていない、第一学歴も無い者がこんなものを出してちやほやされて、とのひどい批判を受けた。これは学歴のないことによる偏見とひがみだと怒った父は、原稿をすべて焼却処分してしまった。

父はその後、歴史学者たちが余り関心を持たなかった風俗・文化史方面に進み、『ことばの事典』『ものしり事典』など様々な書籍を出版したが、最後まで心残りだったのが、最初の仕事として母とともに手がけた『国史大年表』であった。病に倒れた後は話といえ、この年表のことばかりであった。派手さはなく、学者として実績にもならない、研究対象にもならない、しかも、その割に時間がかかる仕事であるから、これからも学会・学者とは関係のない歴史好きな職人的な手によらなければ、よいものはないだろうと言っていた。

父の死後、父がそう思っていたのなら歴史好きな自分がやってみよう、今までにないきちんとしたものを分野別に、すべて出典史料をつけて作成してみよう。歴史の上でわかっていることをまとめるのだから、すぐにも完成できるだろうと考えてやり始めた。しかし五年、十年、二十年やっても先が見えない。平均すれば毎日五、六時間机に向かって、もう四十余年が経つ。それでも、まだ先が見えない。肝心の出版の方も原稿量が多すぎたため、何度も頓挫をきたした。

それでもこの度、ようやくこの労苦を形にしてみようという奇特な出版社が現れた。内容は今までにない充実したもので、読んでも面白いものを心がけ、歴史愛好家は勿論、学者諸氏の期待にも応えられるものとして、また父の思いをも込めたものとして、あらためて世に送り出すこととした。

## 【著者プロフィール】 日置英剛（ひおき・えいごう）

一九三五（昭和十）年一月十六日、鎌倉円覚寺黄梅院に生まれる。父は『国史大年表』『ものしり事典』『話の大事典』『日本系譜総覧』『日本歴史人名辞典』などを著した歴史家、日置昌一。一九五八年、東京教育大学（現・筑波大学）文学部卒業。神戸に在住、滝川中・高等学校、灘中・高等学校などで教鞭をとる。『年表 太平洋戦争全史』（国書刊行会）編著、『ことばの事典』（講談社）、『僧兵の研究』（戎光祥出版）、『日本年表選集』（クレス出版）監修。

## 『新・国史大年表』を推薦します。

司馬遼太郎

## 座右にぜひ揃えたい

尾崎秀樹

『新・国史大年表』は、日置父子二代にわたる研鑽の成果で、雄大な構想のもとに史料を博く確かめた日本史の総合年表だ。政治・社会・文化の各分野にわたって、出典を明示したその記載は、そのまま歴史を読むおもしろさがある。

## 年表の概念を超えた著作

奈良本辰也

年表という概念を超えた雄大な著作です。勿論、凡ゆる部門を統括して、余すところがありません。専門家のみならず、一般の読者もこの年表から多くの事象を読み取ることでしょう。

## 読んで面白い

中村元

詳しいばかりでなく、読んで面白い年表である。わたくしは日本のことを専攻しているのではないので、知識が散漫であるのを嘆いていたが、この年表によって、わたくしが興味を持つ個々の事件や人物の位置づけを正確にすることができるようになるのを喜ばしく思う。

## 歴史を一望できることの愉快

荒俣宏（作家・博物学）

小生はこの年表を座右に置けば、臨場感あふれる小説の一本も即座に書きあげられそうな愉快を感じる。今回あらたに日置英剛氏により出典明示、索引も完備というデータベース性強化が打ちだされた『新・国史大年表』は、まさに最強の歴史年表といえよう。

## 世紀の大偉業

色川大吉（日本史家・東京経済大学名誉教授）

私も十年余年年表編纂で苦勞した経験があるので、この父子二代、半世紀を費やした大年表の価値がよく分る。出典明示、史料紹介、略辞典を兼ねた上、在野の眼が随所に光るこの著作は、学会への無限の貢献、世界中の日本研究者への一大福音である。

## 待ち望むこと久し、『国史大年表』を推す

紀田順一郎（作家・県立神奈川近代文学館館長）

歴史年表は、読書や研究活動に必備のツールであるが、これまでの年表は細分化する複雑なニーズに応じるには、必ずしも十分ではなかったように思われる。日置英剛編『新・国史大年表』は、政治経済はもとより、社会のあらゆる分野に目くばりを行った、精細きわまりない年表である。明治維新や関東大震災、終戦などの重要な事件には、思い切って何ページも割く方針を採用するなど、従来の常識を破った画期的な編纂方針を採っている。したがって、ある年代の、ある史的 주제について研究するような場合、該当箇所とその周辺を精読すれば、数冊の参考書を読むよりも能率的に、理解が得られることは間違いない。このようなツールな年表は出版史上初といえ、さらには日置氏のような年表づくり一筋に半生を捧げた専門家にのみ、はじめて可能な業績といえる。一日も早い完結を期待すると同時に、出た巻から即刻座右に備え、辞典のように活用していきたいと願っている。

## 『新・国史大年表』のたのしみ

田辺聖子（作家）

『新・国史大年表』は二十一世紀のわれらに贈られる、編者・日置英剛氏の雄渾な大作である。われわれはこの『新・国史大年表』に依って、従前の（日本の歴史を学ぶ）のみでなく、（読むたのしみ）（知るたのしみ）（新しい発見のたのしみ）を教えられるであろう。その時代、その時代の（政治・経済・社会・文化）が、明記された資料により、時代を追って展開される。三者、イキを合せて流れ、移り、かわりゆく。それを身に沁みて知る面白さ。——これは、若き学徒のための座右の歴史資料であると共に、われら中・高年世代の人間にとっても、興味尽きない人生の愛読書、となるのではなからうか。従前の歴史の勉強ではわれわれは単発的平面的に史実を学ぶ。しかしこの年表の如く、政治・経済・社会・文化と立体的に併記されると、時代の様相が一挙に顕れあがる。一般社会人にとっても、興味尽きぬ資料となろう。愛読書は、と問われて『新・国史大年表』と、私もいたくなる。

## 深い感銘を覚える

谷川浩司（日本将棋連盟棋士）

歴史というのは後世の評論家によって作られる一面もあると思う。例えば、将棋のような勝負の世界のことであれば、話を面白くするために脚色を加える、というのも許されるかも知れない。ところが、国史ともなるとそうはいかない。あらゆる方面から情報を収集し、それを客観的に分析する判断力が要求される。そしてその上に、資料としてだけではなく読み物としての興味も兼ね備えていることが望ましい。本書は、日置先生がお父様の遺志を跡ぎ、四十余年の歳月をかけて書き上げた力作である。滝川高校時代の三年間、日置先生の教えを受けた身として『新・国史大年表』の完成は我がことのように嬉しい。そして、先生が教壇に立ちながら国史の編纂を続けてこられたことに、深い感銘を覚える。

## 往生していたものが、あっさり判明

半藤一利（作家）

嘉永六年（一八五三）といえば、ペリー提督の率いる黒船四隻の来航に、日本は泰平の夢を破られたときである。そのときの江戸町人の人口はどのくらいいたものか、これまで調べようにも手がかりがなく、往生していたもの。それがこの『新・国史大年表』であっさり判明した。総計五七万五〇九一人、うち男二九万五二七五人、女二七万九八一六人、おなごが尊ばれたに違いないことまでわかる。さらには、出稼ぎ人が九〇七五人いたなんてところまで出ている。いやでも想像力をふくらましたくなる。もってこれが従来の年表とはまったく違うものであることが知れよう。とにかく恐れいりました。編者の日置英剛さんがいかなる方か存じないが、後世の人のためのこの精密にして、開くのが楽しい日本史年表の成ったことに、また、これを完成させるべく努力を払った方々にたいして、深い敬意と感謝を申しあげます。

# 推薦のことば【敬称略】

\*ここには、故人の方々から生前にお寄せいただいた推薦文も掲載しています。大きなご期待とご推薦のおことばを頂戴しておりましたが、出版報告が間に合わず大変申し訳なく、お礼とお詫びの心をこめ、ご冥福をお祈りいたします。

●歴史を学び、愛するひとのための決定版「読む」年表

# 新國史大年表

全九巻十索引一巻

## 目録英訳編

該当年の天皇・朝廷・幕府・政府の要職が一目瞭然

1853 2・8

嘉永6年

癸丑

皇紀2513年

【中国】

清・咸豊3年

【朝鮮】

哲宗4年

陰暦月の大小、  
閏月、毎月1日  
の干支

1月	大丙午
2月	小丙子
3月	大乙巳
4月	小乙巳
5月	大甲戌
6月	小甲辰
7月	大癸酉
8月	小癸卯
9月	大壬申
10月	小壬寅
11月	大辛未
12月	小辛未

政治・経済・社会、文化からなる二段組の見やすいレイアウト

【天皇】孝明  
【将軍】徳川家慶（7・22）  
（家定・十三代11・23）

【先皇】  
【老中】阿部正弘・松平乗全・松平忠優・久世広周・内藤信親（9・15）  
弘池田頼方

【閣白】鷹司政通

【武家伝奏】坊城俊明・三条実方  
【京都所司代】脇坂安宅  
【大坂城代】土屋寅直  
【江戸町奉行】井戸覚

1853-嘉永6年

★指標を明示し、  
項目から引きやすい

指標	政治・経済	社会	文化
* 堂島米市場米方 年行司に両替類似 行為を禁止 * 京都大火 * 幕府連歌会 * 鹿児島藩主に琉 球型大砲船の建造 が許可される * 関東地方大地震 * 二宮尊徳、日光任 法を実施 * 下総松戸宿大火 * 湯屋二階に女子 を置く接待禁止	1・24(3・3) 大坂町奉行、堂島米市場米方年行司に正銀正米取扱石数の増加、限日両建を禁止、両替類似行為を禁止する。(堂島日記) 2・2(3・11) 鹿児島藩主島津齊彬、幕府から琉球型大砲船の建造が許可され、海岸防備に使用することの内諾を得たので建造を命じる。ついで家老島津久宝を造船掛とする。(島津齊彬文書) 2・3 銭屋喜太郎の奥羽・蝦夷における取引状況の調査を命じられた足軽ら、加賀藩に報告書を提出。(津軽松前等御内用印) 2・13 二宮尊徳、日光任法を実施する。(日光御神領荒地返還村旧復之任法取扱方被仰渡書) 〔今般格別の御仁恵を以て、日光御神領村々荒地返し返りし方任法に付見込の趣、委細に申し上げ奉るべき旨、仰せつけられ、有難き御趣意、往々手違ひ之れ無き様、前々取扱ひ米り候手続を以て、荒地返し返し仕法雛形組立て伺に奉り候間、耕作出精奇特の人、一村限り入札致させ、高札の者え仕法種金志両、無利置据を貸附け、荒地総反別の内、地味は勿論、用悪水・道橋道路能き土地を見立て、先づ沓反歩起し返し作り立てさせ候は、地	1・16(2・23) 江戸大雪。春寒、殊に烈しく火災度々あり。(増訂武江年表) 1・28 京都大火。(続々泰平年表) 1月 広島藩、安芸山県郡鉄山を藩営とする。(芸藩志拾遺) 2・2(3・11) 関東地方大地震。小田原地方の被害多し。(増訂武江年表・嘉永明治年間録) 2月1日、三遠豆相四か国大地震。相州小田原辺別けて強く、居城大破損ならびに武家屋敷および民家等大損。潰れ家二千二百軒余、土蔵千四百四十八か所、怪我人七百八人、死亡十九人、斃馬三匹、ただし出火これ無く、翌三日同じく十三日都合三度、大地震に震ふ。(嘉永明治年間録) 2・4 下総松戸宿大火。(増訂武江年表) 2・5 対馬藩、徒党集会等を禁止する。(嚴原藩毎日記) 2・19 江戸上高輪宝徳寺門前の湯屋弥三郎など湯屋五軒二階に女子を置き接待させ嚴重注意を受ける。 〔右は近頃二階番に女子差し置き、または二階番は男にて、手伝に女子差し置き候もこれ有り候趣、御聴き入れ、南御番所へ召し出され、今日御吟味相成り申し候。〕〔撰要永久録〕 2・21 越前鯖江侯の家臣某が発狂し、江戸両国元町で通行	1・11(2・18) 幕府連歌会。 万代のありかたにせん栄の春、昌固 霞む真砂に遊ぶ鶴亀、左大臣殿 浦安の御国は波も長閑にて、信教 風おさまれば雨も晴れけり、昌春 旅人は舍りを今や出ぬらん、昌有 光りみちたる関山の月、昌久 下紅葉染増りたる杉むらに、晴全 なく掉塵の声もはるけき、行阿 末広き千町の田面続くらん、光魚 流れわかる、水の幾筋、正官 川中に放れし鳥のあらはれて、勝男 〔巷街贅説〕
* 江戸城西丸工事 献金を命ず * 上野不忍池の浚 え * 大坂町奉行、三 郷綿仲間以外の者 綿を直買い、直積 みを禁止す * 福井小浜大火 * 切られ与三初演 * 下田奉行が再置 * 八品商売人仲間 再興を許可 * 曲馬の芝居	3・9(4・16) 大坂町奉行、株仲間の再興にともない、三郷綿仲間以外の者が綿を直買い、直積みすることを禁止する。 〔大御触書承知印形帳〕 幕府、都筑峰重を佐渡奉行とする。(慎徳院殿御実紀) 幕府、二の丸御留守居下會根信致(信之)を砲術教授のため浦賀に派遣する。(高麗環雑記) 江戸城吹上苑で犬追物が行われる。(続々泰平年表) 下田奉行が再置される。(吏微別録) 幕府、八品商売人仲間再興を許可。 〔今般問屋組合仲間等、追々取調の上再興申し付け候。右に付きては町中質屋・古着屋・古着買・古鉄屋・古鉄買・古道具屋・小道具屋・唐物屋共、前々の通り、組合の内に月行事を人づつ順番に定め置き、紛失物吟味の節、当番の月行事ならびにその町の月行事在会し、触書を以て組合の内相廻り、帳面吟味いたすべく候。〕〔天保町触〕 幕府、宇都宮藩が家臣恒川勇之丞に行わせる武術流砲術を武威徳丸原で演習を実施することを許可する。(宇都宮藩当用印)	人八人を怪我させる。(きぎのまにま 2月 上野不忍池の浚えが行われる。 〔二月上旬より池浚に相懸り候ところの雨降りにて、諸人難渋いたし候。しの居所これなき故、腹を立て荒れらせ候との大評判なり。〕	〔安政6年一八五九〕 幕府、「日米修好通商条約」批准書交換のための遣米使節、正使新見正興・副使村垣範正・目付小栗忠順を任命。 〔例の如く大城に登りしが、俄に麻の上へ下りて芙蓉間に 出よとありければ、同僚幕前守正興朝臣、をのれ、鑑察 の小栗忠順と同じく出づれば、彦根中将「井伊直弼」は じめ執政の方々つらなりて、鯖江侍從「間部詮勝」こた び亜米利加国へ条約取りかかせとして遣さる。間用意せ よとの仰を伝へらる。やがて新番所前の溜にて、豊前守 正興は正使、をのれは副使、小栗忠順は立合の心得にて 勤めよと書付もて龍野侍從「脇坂安宅」伝へらる。〔村 垣範正遣米使日記〕 軍艦奉行井上清直、幕府の派遣する軍艦を（観光丸）に 定め、24乗員を木村喜藏、28軍艦奉行となる。以下を定め る。26 勝麟太郎(海舟)、船中での申合せ書を定める。 乗員の俸給を定める。 教授方頭取 一日 金一兩と永百二十六文 教授方 同 金三分 同手伝 同 金一分と永百二十五文 派遣艦を「観光丸」から「威臨丸」へ変更する。(勝海舟 〔海軍歴史〕) 〔万延元年一八六〇〕 アメリカ軍艦「ボアタン」、品川に來航。 幕府軍艦「威臨丸」、品川を、19浦賀を出航。軍艦奉行木 村喜藏、軍艦操練所教授方頭取勝麟太郎、同教授方佐 倉桐太郎・同小野広平・同肥田浜五郎・同松岡隆吉、同教 授方手伝赤松大三郎、通訳中浜万次郎、塩飽島出身者 を中心とした水夫五十余人など計九十六人、ブルック大 尉以下十人のアメリカ水夫など合計百七人が乗艦。 アメリカ軍艦「ボアタン」、品川を出航。遣米使節正使新 見正興・副使村垣範正・目付小栗忠順、隨員の森田岡太

1853

政治・経済

社会

1860

指標

万延遣米使節

* ベリー琉球那覇 に來航 * 石見津和野大火 * 下田奉行が再置 * 八品商売人仲間 再興を許可 * 曲馬の芝居 * 大坂町奉行、三 郷綿仲間以外の者 綿を直買い、直積 みを禁止す * 福井小浜大火 * 切られ与三初演 * 下田奉行が再置 * 八品商売人仲間 再興を許可 * 曲馬の芝居	4・19(5・26) アメリカ東インド艦隊司令長官マッシュュー・カルプ・リース・ベリー、サスケハナ・ミシシッピ・サブライ・カ・プライスの軍艦四艘を率いて琉球那覇に來航。30ベリ、艦長以下隨員三十人・護衛兵百三十人・乗員二百三十人など	4・16(5・23) 石見津和野城および城下町大火。 4・23(28) ベリーの琉球奧地踏査隊、那覇・喜味城恩納・北谷を巡る。(ペリリ提 4月 江戸深川仲町で、阿蘭陀渡りのチャ
--	--	--

★すべての史資料の出典を明記

加えて本文の理解を助ける補助史資料を、コラムで紹介

13 食べもの

親子丼 1890・是年 社
菓子(東京・有名菓子) 1890・6月 社
甘納豆(甘名納豆)の始め 1858・是年 社
有平糖 1878・12・11 社
栄太郎(楼) 1856・是年 社
菓子パン売り(横浜) 1888・3月 社
カルルス煎餅 1887・6月 社
瓦煎餅 1871 是年 社
シュークリーム 1877・是年 社
チョコレート始め 1875・是年 社/1878・12・11 社
鶴の子(菓子) 1887・是年 社
ドロップス製造機 1894・12月 社
ビスケット 1855・2・23 社/1875・是年 社/1877・7月 社/1879・12月 社
ビスケット(軍用) 1894・7・17 社/1894・11・7 社
ビスケット製造機械 1889・8月 社
ボンボンを発売 1876・10月 社/1877・10月 社
マシュマロ 1892・7月 社
文字菓子 1872・3月 社
洋菓子店 1874・是年 社
ラムネ 1868・11月 社/1886・7月 社

ラムネ(固形) 1890・7月 社
菓子税 1885・5・8 社
菓子税則 1885・5・8 社
菓子仲間規定帳 1865・⑤月 文
割烹法練習学校 1892・是年 社
カツレツ 1860・是年 文
カレーの作り方 1872・是年 社
カレーライス 1895・是年 社
牛肉・牛乳と牛鍋 1862・⑧月 社
牛鍋の始め 1887・1・28 社/1888・是年 社
牛鍋屋「いろは」 1856・5・8 社
牛肉の供給要請 1867・1月 文
牛肉(開業広告) 1894・9月 社
牛肉缶詰高騰 1879・1・25 社
牛肉値段 1856・5・8 社/1866・是年 社/1877・是年 社/1885・10月 社
牛肉販売 1857・4・20 社/1866・1・10 社
牛乳 1885・11・13 社
牛乳営業取締規則 1891・7月 社
牛乳切手 1873・10・19 社
牛乳搾取心得規則 1863・是年 社/1880・是年 社
牛乳搾乳業 1881・2月 社
牛乳配達 1882・10・30 社
コンデンスミルク 1861・是年 社
チーズ 1888・5月 社
東京牛乳倶楽部 1886・10月 社/1887・是年 社/1879・9月 社
バター(牛酪) 1879・9月 社

索引から歴史が見える

各巻末には充実した索引を完備。約五十の分野別に構成された項目索引(各巻約七〇〇〇〜八〇〇〇件)は、事物の起源や便覧としても役立つ。歴史を調べる楽しさを倍増させる。人名索引(各巻約七〇〇〇件)は物故録も兼ね、多目的に活用できる。また最終配本には、各巻の索引を全て集めた索引巻を用意、古代から現代を通して体系的に知識が得られる。

古代より現在まで、日本歴史のあらゆる分野を網羅

政治・経済・社会・宗教・風俗・文化・娯楽から美術・工芸・趣味まで

個人年表だからこそなした、驚異の水準

604

2・6

推古天皇12年

きのえね 甲子

皇紀1264年

【中国】 隋・仁寿4年

【朝鮮】 新羅 真平王26年 高句麗 嬰陽王15年 百濟 武王5年

1月小戊戌 2月大丁卯 3月小丁酉 4月大丙寅 5月小丙申 6月大乙丑 7月小乙未 8月大甲子 9月大甲午 10月小甲子 11月大癸巳 12月小癸亥

【天皇】 推古天皇

【先皇】

【左大臣】

【中臣】

【関白】

【大臣】 蘇我馬子

【右大臣】

【中臣】

文化

指標

政治・経済

社会

文化

\* 曆法の始め \* 聖徳太子、十七条の憲法をつくる

\* 画師を定める

1・1

4・3

9月

諸臣に冠位を賜う。(日本書紀) 皇太子(聖徳太子)、憲法十七条をつくる。 [戊辰、皇太子、親ら筆めて憲法十七条を作りましき。] [日本書紀] (一説には推古13・7月↓上宮聖徳法王帝説) 朝礼を改める。一凡そ宮門を出て入 手を以て地を押し、両つの脚をもて 外のしきり」を越えて、立ちて行け。 [日本書紀] 一 辞 を伝え事を説くに、或は蹲し「うずくまり」或は跪し 「ひざまずき」、両手を地に抛き、これを恭敬となす。 [魏志倭人伝]

かつてない詳細さと、正確な記述

月日の単位で出来事の全貌を紹介

【憲法十七条】

一に曰く、和を以て貴しと為し、竹ふるること無きを、宗となせ。人皆党有り、亦達れる者少し。是を以て或は君父に 順はず、乍た隣里に違う。然れども上和らざり下睦びて、事を論ふに諧ふときは、則ち事理自ら通ふ。何事か成らざら む。

二に曰く、篤く三宝を敬へ。三宝とは仏法僧なり。

三に曰く、詔を承りては必ず謹め。君をば則ち天とす。臣をば地とす。

四に曰く、群卿百寮、礼を以て本となせ。其れ民を治むる本は要す礼に在り。

五に曰く、饗を絶ち欲を棄てて明かに訴訟を弁へよ。

六に曰く、悪を懲し善を勸むるは古の良典なり。

七に曰く、人各任有り。掌ること宜く濫れざるべし。

八に曰く、群卿百寮、早く朝り晏く退てよ。

九に曰く、信は是義の本なり。事毎に信有るべし。

中高生にもわかりやすいよう、ルビや語句の説明が豊富

十二に曰く、国司、国造、百姓に敘ること勿れ。国に二君なく民に両主なし。 十三に曰く、諸の官に任せる者同じく職掌を知れ。 十四に曰く、群臣百寮、嫉妬有ること無かれ。 十五に曰く、私を背きて公に向くは、是れ臣の道なり。 十六に曰く、民を使ふに時を以てするは、古の良典なり。 十七に曰く、大れ事は独り断むべからず。必ず衆と与に論ふべし。 [日本書紀]

605

1・25

(閏年)

推古天皇13年

きのとうし 乙丑

皇紀1265年

【中国】 隋・大業元年

【朝鮮】 新羅 真平王27年 高句麗 嬰陽王16年 百濟 武王6年

1月大壬辰 2月小壬戌

【天皇】 推古天皇

【先皇】

【左大臣】

【中臣】

【関白】

【大臣】

【右大臣】

【中臣】

社会

項目索引 22 交通・通信

22 交通・通信

鉄道の開通(開通日順)
鉄道(江戸・横浜) 1866・4・4 政/1867・2・1 社/1867・10・23 政/1869・3月 社/1869・11・10 社
(江戸・京都) 1868・2・11 社
(大阪・神戸) 1868・7・28 社/1870・7・30 社
(琵琶湖・敦賀) 1869・11・10 社
(京都・神戸) 1869・11・10 社
(東京・横浜) 1869・11・10 社
(東京・京都、中山道経由) 1869・11・10 社
(神奈川・横浜) 1871・8・6 社
(品川・横浜) 1872・5・7 社
(新橋・横浜) 1872・9・12 社
(大阪・神戸) 1874・5・11 社
(大阪・安治川) 1875・5・1 社
(京都・神戸) 1876・7・26 社
(京都・大阪) 1877・2・5 社
(京都・大津) 1880・7・15 社

鉄道 (国府津・静岡) 1889・2・1 社
(新宿・立川) 1889・4・11 社
(静岡・浜松) 1889・4・16 社
(淡町・柏原) 1889・5・14 社
(丸亀・琴平) 1889・5・23 社
(大船・横須賀) 1889・6・15 社
(新橋・神戸) 1889・7・1 社
(長浜・大津) 1889・7・1 社
(立川・八王子) 1889・8・11 社
(神戸・兵庫) 1889・9・1 社
(姫路・揖保川) 1889・11・11 社
(前橋・小山) 1889・11・20 社
(博多・千歳) 1889・12・11 社
(草津・三雲) 1889・12・15 社
(前橋・桐生) 1890・1・6 社
(久留米・千歳川) 1890・3・1 社
(岩切・一ノ関) 1890・4・16 社
(兵庫・和田岬) 1890・7・8 社
(今市・日光) 1890・8・1 社
(一ノ関・盛岡) 1890・11・1 社
(上野・秋葉原) 1890・11・1 社
(姫路・三石) 1890・12・1 社
(草津・四日市) 1890・12・25 社
(三石・岡山) 1891・3・18 社
(門司・黒崎) 1891・4・1 社

初めて暦を用いる。宋の元嘉暦を採用する。〔政事要略伊呂波字類抄〕 「小治田朝十二年歳次甲子正月戊戌朔を以て、始めて暦日を用ふ。〔政事要略〕 黄書画師・山背画師を定める。〔日本書紀〕 黄文画師・山背画師・筑紫画師・河内画師・檀画師を定める。 「太子、諸寺仏像を絵がき莊嚴となすために、黄文画師・山背画師・筑紫画師・檀画師等を定め、其の戸課を免じ、永く名業となす。〔聖徳太子伝暦〕 黄文連は、高麗国人久斯那王より出づるなり。〔新撰姓氏録山城国諸蕃〕